



原山 尚徳 Harayama Hisanori
植物生態研究領域

2024年、世界の平均気温は観測史上最高を記録し、産業革命前より1.55℃上昇しました。地球温暖化を抑えるため、2050年までに二酸化炭素(CO₂)の排出と吸収の差をゼロにする「カーボンニュートラル」の実現が、国際的な目標となっています。

木質バイオマスは、成長過程でCO₂を吸収するため、燃やしても大気中のCO₂を増やさず再生可能エネルギーとして注目されています。私たちは木質バイオマスの新たな生産手法として、海外の冷涼地域で実績のあるヤナギを用いた「超短伐期萌芽再生法」の国内導入を進めています。

この方法は、通常の林業とは異なり、1ヘクタールあたり1万5000本〜1万8000本の高密度で植栽し、2〜5年ごとに繰り返し収穫するのが特徴です。ヤナギは萌芽再生力に優れており、再植栽せずに20〜30年間収穫を続けるこ

ヤナギを育てて カーボンニュートラルを目指す

とができます。北海道での試験では、海外と同様に年間10絶乾トン（水分を含まない重量）/haの収量が得られ、雑草管理と優良系統の選定が重要であること、小型のサトウキビ用収穫機がヤナギの収穫に活用できることが明らかになりました。現在、全国各地でさまざまな事業者が、実用化に向けた栽培試験を進めています。（2025年2月13日開催講座より）



サトウキビ用国産小型収穫機を使ったヤナギ収穫の様子。機械の損傷もなく収穫翌年の再成長も順調だった。作業の効率化が今後の課題。



植栽3カ月後のヤナギの様子。ポール左側は雑草対策なしで成長不良、右は農業用マルチ（雑草防除などのために敷設するシート）で対策し成長良好。

令和7年度 森林講座のお知らせ

開催講座

10月24日(金曜日)
「木の香りを活かして、
生活を少し豊かに」
森川 卓哉 (森林資源化学研究領域)

11月21日(金曜日)
「雪と森林」
勝島 隆史 (森林防災研究領域(十日町試験地))

12月19日(金曜日)
「固有種の宝庫、小笠原諸島の
林木遺伝資源保全に向けた取組」
玉城 聡 (林木育種センター遺伝資源部)

1月22日(木曜日)
「日本へとつながるアジア大陸の人類移動
氷河期の森林拡大が要因だった」
志知 幸治 (北海道支所)

2月5日(木曜日)
「赤トンボの知られざる旅
—生息地のつながりを理解しよう—」
東川 航 (九州支所)

森林・林業や木材への関心や理解を深めていただこうと、一般の方々を対象にした「森林講座」を多摩森林科学園森の科学館で毎回午後1時15分〜3時に開きます。受講無料。

◆受講申込み

メールまたは往復はがきで、講座名と受講人数(最多3人まで)、受講者(複数人の場合は代表者)の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記して下記の申込先にお送りください。講座開催日の前月1日から受け付け、先着順で定員30名に達し次第、または開催2日前に締め切ります。詳しくは下記「森林講座(2025年度)」ページをご覧ください。

◆「森林講座(2025年度)」ページ



◆講座会場・申込先・問合せ先
多摩森林科学園
〒193-0843
東京都八王子市甘里町1833-81

お問合せ電話: 042-661-1121
E-mail: shinrinkouza@ffpri.go.jp